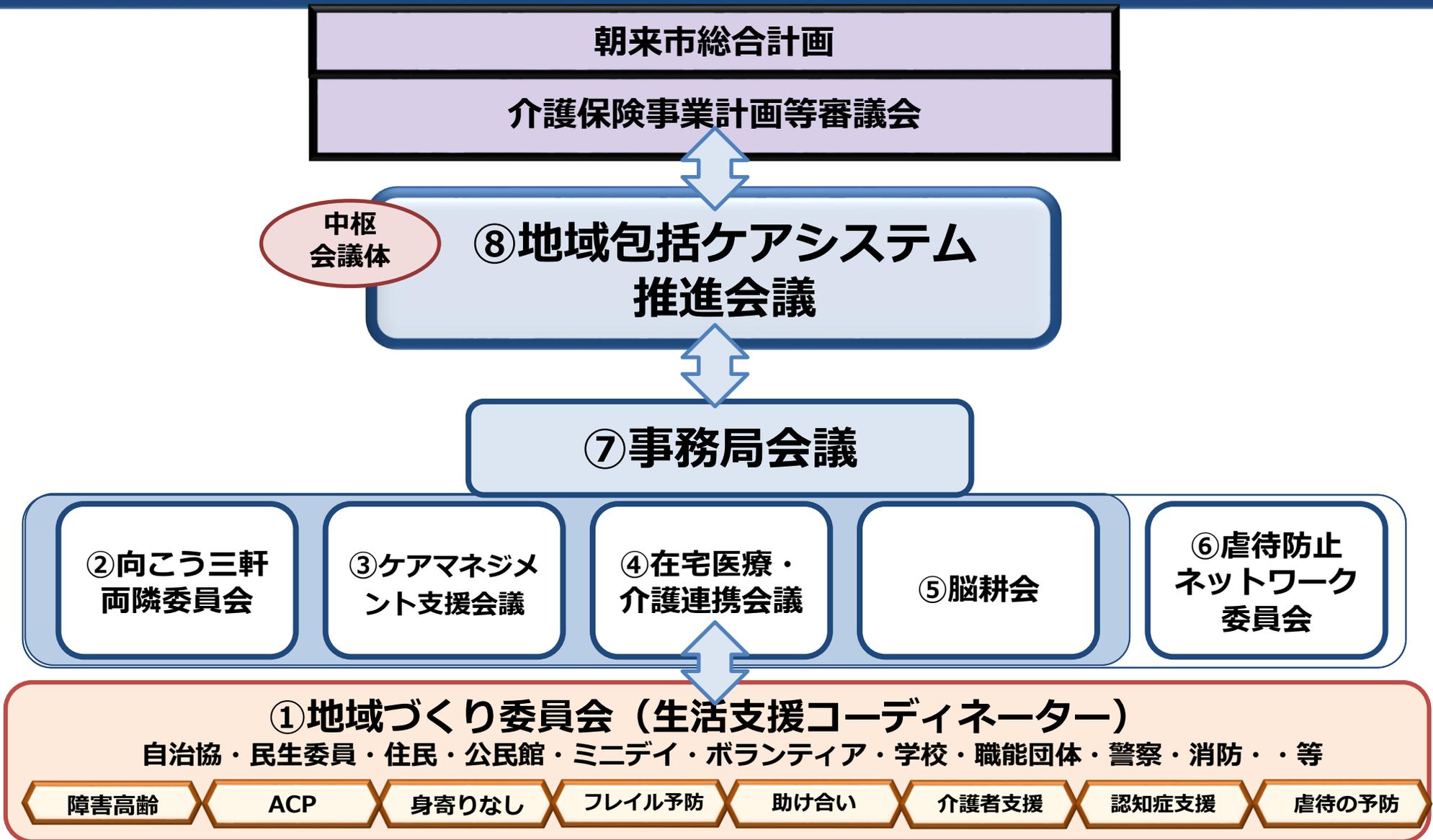


朝来市地域ケア会議体制デザイン（令和6年4月改正）



※作業部会は必要時立ち上げる（①各会議体を横断する複雑な課題 ②高度な専門性の必要な課題 ③緊急性の高い課題 ④その他推進会議の求めに応じて）

新各会議体の役割（令和6年4月改正）

会議名	開催回数	特徴	相互の関連性
①地域づくり委員会	年10回程度	住民主体の活動をサポートすることにより、支えあうことのできる地域づくりを推進する。生活支援コーディネーターの立場から見えた地域の課題や、地域の力を抽出する。	①～⑥は、次のA～Dを行う A ネットワーク・連携づくり・研修会 B 地域の強みやできているところを見出す C 日々の連携や個別事例への対応から地域課題を見出す D B,Cの地域課題を⑦事務局会議へ報告する。
②向こう三軒両隣委員会	適宜	年間60～80回の向こう三軒両隣会議を集約し、多くの対象者が抱える共通の課題や、ネットワーク・支援体制づくりの効果を抽出する。	
③ケアマネジメント支援会議	適宜	年間30～40回のケアマネジメント支援会議を集約し、多くの対象者が抱える共通の課題や、ネットワーク・支援体制づくりの効果を抽出する。	
④在宅医療・介護連携会議	適宜	医療・介護の現場からの意見、事例検討等から、多くの対象者が抱える共通の課題や、ネットワーク・支援体制づくりの効果を抽出する	
⑤脳耕会	適宜	認知症支援施策への意見、認知症事例等の検討・集約から、多くの対象者が抱える共通の課題や、ネットワーク・支援体制づくりの効果を抽出する。	
⑥虐待防止ネットワーク委員会	年1回程度	虐待事例の検討・集約から、多くの対象者が抱える共通の課題や、ネットワーク・支援体制づくりの効果を抽出する。	
⑦事務局会議	年2回程度	①～⑥からの報告を受け、朝来市の地域課題の整理と優先順位づけを行う。検討すべき地域課題を明確にし、⑧地域包括ケアシステム推進会議へ報告する。	①～⑥からの報告を集約し、地域課題や支援体制づくりを明確にした後、⑧に報告する。
⑧地域包括ケアシステム推進会議	年2回程度	⑦からの報告を受け、朝来市地域課題に対する資源開発の必要性や、支援体制づくりの効果について検討する。調査や資源開発が必要な場合は、立ち上げ指示や運営管理を行う。	⑦からの報告を受けて協議したのち、⑦へ資源開発の指示を出す。
※作業部会	適宜	必要時立ち上げ。各会議体を横断する複雑な課題、高度な専門性の必要な課題、緊急性の高い課題、または推進会議の求めに応じて招集する	ワーキングの立ち上げ判断は⑦あるいは⑧で行う